



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

「宣教のための特別月間」

とはなにか？

助任司祭 下原和希

今年には教皇フランシスコの来日というカトリックの教会において大きな節目を迎えております。三十八年ぶりの教皇の来日というビッグニュースにおいて、多くの方が一目でもお姿を拝見したいと考えていることだと思います。私もその内の一人です。浦上教会に助任司祭としていた時は、一九八一年に来日された教皇ヨハネ・パウロ二世の松山陸上競技場における御ミサについてのお話を、羨ましく聞いておりました。

そのような大きな節目を迎えるからこそ、あまり目立っておりませんが、二〇一九年の十月は「宣教のための特別月間」と定められております。今から百年前の一九一九年、当時の教皇ベネディクト一五世が、世界大戦を経て、教会の普遍性を再確認し、イエスの愛の教えを広める「宣教」を多くの人に強調しました。百年経った今、教皇フランシスコは、宣教の意識をさらに高めるため、また教会生活と司牧活動に新たな熱意をもって取り組むため、二〇一九年十月を「宣教のための特別月間」と定められました。長崎教区においても、教皇様を迎えるための準備の意味も込めて、この期間を大切にするように願っております。そのための取り組みとして、大司教様からシノドス提言の理解、各小教区における地区集会等、提示されております。

しかし、そもその「宣教」という言葉はどのような意味があるのでしょうか。教えを宣べると書いて「宣教」ですが、宣べることだけが宣教になるのでしょうか。「教え」とはもちろん神様の教え、特にイエス・キリストの愛の教えを指しているかと思いますが、そのことをどのように「宣べ」のでしょうか。自分が知っている聖書の教えを知らない人に口頭で説明する、一緒に聖書を読んで教えを学ぶ。こういったことも「宣べ」ということだと思いますが、何よりも第一に自分自身の内的刷新が求められるというところは、「宣教のための特別月間」を過ごすための留意点にも書かれています。 「宣べ」と聞くとき、誰かに何か話をしていくことを想像してしまうかもしれませんが、行動によっても「宣べ」ことは可能で、また、話すことにしても行動するにしても、自分の心の内を見つめ刷新していくことから「宣べ」という言葉が浮き彫りになっていくのだと思います。各教会で何をしていくか、具体的に定められているかと思いますが、第一に自分の心の内を見つめ刷新していくこと。教皇様を心からお迎えできますように、そのための準備を私たち一人一人がすすめてまいりましょう。

揺れても 折れないこころ

助任司祭 金 ボム

最近五島を通った台風十七号の時、日曜日夕方、ちょうど風も強かったですし、体も少し疲れましたし、仕事をする気にもならなくて、横になつたら、司祭館が揺れました。最初地震かと思いましたが、やがてそれが強風の影響だったのがわかりました。それほど風が強かったのでしょうか。建物の揺れを久々に感じたわたしは、司祭館が崩れたら、どのように脱出するか、建物が崩れてその下に埋められてしまったら、どうなるかという妄想をしました。

建設にはあまり詳しくありませんが、少し揺れるように建物を作るのが、地震のとき、建物が崩れない設計方法だと、どこかで聞いております。風や地震で建物が多少揺れても崩れないように、日本では耐震設計をします。風などで倒れても、決して折れない章のようです。それは、単に建物や章に該当するものではありません。わたしたちの生活にも該当しますし、

また自分の信仰生活にも該当します。

自分の生活の中で、いろんな危機が訪れて来ます。その危機によって、自分の人生がめまろしくちやになることもあり、耐え難い試練が共に訪れてくる場合もあります。それで、大抵の人が、「自分はダメだ」とか、「弱すぎる」と思いかもしれません。でも、揺れやすいし、あまり強く見えない葦が、強風の時は丈夫な木より強いように、また、弱くすべてを迫害者の手に委ね、自ら死を迎えたからこそ、すべての人を救う神様のみ業が全うされたイエス様のように、弱くて揺れやすいわたしであっても、自分が弱いし、揺れやすいと分かるからこそ、決して折れたり、倒れたりしないはずです。弱いからこそ強いという逆説が、私たちが信じるカトリック信仰の神秘です。

十月はロザリオの月

カトリック教会では、毎年十月を「ロザリオの月」としています。福江教会では、普段から毎日のごミサ前にロザリオを唱えています。十月中は夕方五時から小学生がロザリオを唱えています。もちろん小学生以外の方も一緒に参加できます。今回は、ロザリオの事について基本的に中心を紹介したいと思います。

○ロザリオの歴史

ロザリオの起源ははっきりと分かっていないようですが、現在の

形となって普及したのは十二世紀頃で、聖ドミニコが聖母マリアからの啓示を受けたのが始まりとされています。その後、ドミニコ会の修道士らが普及に努めたことで世界に広まったとのことです。背景としては、聖母マリアへの敬愛と神様への取次ぎに対する感謝を表す事があります。が、そもそも「絶えず祈る」という理想形に近づきたいという信徒の思いを実現する方法という面もありました。

○なぜ十月がロザリオの月？

一五七一年のギリシア・レパントの海戦でキリスト教徒がオスマン・トルコ軍に対して勝利を収めた事を記念して、当時のピオ五世教皇がこの年の十月七日を「ロザリオの聖母」の記念日と定めまし

書いてある一般的な唱え方について記します。一人で、又は家庭で唱える場合はこの限りではありません(上図参照)。

- ①はじめに「主の祈り」を唱える。
- ②次に「アヴェ・マリアの祈り」を三回唱え、最後に栄唱を唱える。
- ③祈祷書に書いてある曜日ごとの神秘に基づいて「第一の黙想」を唱える。
- ④「主の祈り」を一回、「アヴェ・マリアの祈り」を十回唱え、最後に栄唱を唱える。
- ⑤続けて第二～第五の黙想まで③、④を繰り返す。

※ロザリオを唱える時、ロザリオの意向(誰かのために、何かのために祈るなど)を自由に決め、思いを込めて唱えると良いでしょう。
※忙しい時は、一連「主の祈り」、「アヴェ・マリアの祈り」×10、「栄唱」のみ唱えるだけでも構いません。ほぼ四、五分で終わります。



た。この勝利は、ロザリオの祈りによってもたらされた聖母の助けによるものであると信じられています。その後、レオ十三世教皇が十月を「ロザリオの月」と決めました。

○ロザリオの唱え方

ここでは、祈祷書に慌ただしい毎日の繰り返しで心を乱している方こそ、仕事や家事の合間にロザリオの祈りを唱えてみてください。次第に心が落ち着いて、自らを冷静に振り返ることが出来るかもしれません。ぜひ、この機会にお試し下さい。

中村神父様霊名のお祝い



九月二二日(日)二番ミサ後に、聖ミカエル中村満神父様の霊名のお祝いが行われた。信徒代表として副議長の梅木氏よりお祝いの言葉が述べられた。そして、生涯養成委員会より花束と霊的花束の色紙が贈られた。

中村神父様は、「教皇様の来日スケジュールが公表されて、お迎への準備も進んでいます。これからは長崎に行くことも更に多くなることと思います。留守の間代わりの司祭に応援を頼みますのでよろしくお願ひします。教皇様の記念ミサにたくさん参加してください。私自身、前回ヨハネ・パウロ二世教皇様来日のミサに参加し、教皇様



を間近に見ることが出来た思い出があります。皆さんも、特に若い信徒の方がたくさん参加してもらいたいと願っています。」と述べられた。

(お祝いの言葉)

中村満主任神父様、霊名の祝日おめでとうございます。聖ミカエルの祝日は九月二九日になりますが、少し早めのお祝いをしたいと思えます。三大天使の一人、聖ミカエルの霊名はよく耳にしますが、今までどんな聖人なのか深く考えたことはありませんでした。私が想像する天使のイメージは色白で、とてもかわいいエンジェルですが、中村神父様と見た目で比べるとあまり共通点が見当たらないと思えたので少し調べてみました。

天使とは霊的な存在であるが、神の御使いの役割を持ち、神と人類の仲介を行う使者のこと。その中でも聖ミカエルは人間が人生の中で出くわす悪魔に対して、弱い私たちの不安や恐怖心を癒し、勇気を与えてくれる存在。と書かれています。これを読んだとき私は、中村神父様は神様から選ばれ、私たち信者を天国へと導くために司祭として遣わされ

た方で、聖ミカエルと同様の役割を果たすようにとご両親が付けてくれたのではないかと私なりに納得しました。人を見た目で判断してはいけない、とよく言いますが、その通りだと思えます。

さて、教皇訪日長崎実行委員長でもある神父様、毎週通われている長崎での会議や打ち合わせなど、大変お疲れ様です。教皇様の訪日まであと二ヶ月足らずとなりましたが、お忙しい毎日を送られている様子が見受けられます。教皇様が長崎に来られる日を待ち望んでいる私たちにとっては神父様のご労苦に大変感謝しております。今後さらに当日までの様々な準備でお忙しくなるかと思いますが、お体には十分気をつけて頂き、無事に教皇様のお迎えが出来ますようお祈りしたいと思えます。

今日は福江教会敬老者のお祝いも併せて、神父様の祝賀会を予定しておりますが、台風の影響で開催することが出来なくなり、とても残念



ですが、この祝賀式をもってお許しただきたいと思えます。

最後に、中村神父様のご活躍を神様が豊かなお恵みで報いてくださいますよう信徒一同お祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

今日は本当におめでとうございます。

信徒代表評議会副議長

梅木広成

記事& 募集中! 広報委員

広報委員会では、広報誌「こころ」に掲載する記事を募集しています。内容は、例えば個人で巡礼に行った教会の紹介や、日頃教会のことで考えていることやご意見、要望など何でもかまいません。自薦・他薦を問いませんし、もちろん匿名希望でもかまいません!

また、広報委員も随時募集しています。教会の行事の取材、記事作成を主にやっています。夏の聖母祭での出店(飲み物の屋台)もしています。行事の取材を通して教会に慣れ親しむきっかけとなるかも知れません。お気軽に神父様か、地区委員長さん経済委員さんに声をかけてみてください。お待ちしております!

侍者紹介

現在、福江教会では、小学二年生から中学二年生までの二二名が侍者の奉仕に協力してくれています。紙面上からではありませんが、この場をかりて、侍者の子どもたちとご家族に心より感謝申し上げます。

週に一回と言えど、それが毎週となると決して楽な奉仕ではありません。けれど、子どもたちは嫌な顔ひとつ見せず、眠い目をこすりながら快く奉仕に励んでくれています。また、最近になって侍者を

始めた低学年の子どもたちには、高学年の子どもたちが、率先して侍者のやり方を丁寧に教えてくれています。とても微笑ましく、心温まる光景です。神と人々に仕える者の良き姿を子どもたちが実際に

行いをもって示してくれており、その姿を見る者の心にとっても大きな励みと助けを与えてくれます。この子どもたちの精いっぱいな奉仕の心が、神さまによって、子どもたち



瀧口海人(中2)



熊川千絵美(6年) 岩下聖来(4年) 真鳥陽菜子(6年)

それぞれの成長に必要な恵みに変えられますようにと祈っていききたいと思えます。

福江教会の信徒の皆様、これからは、侍者の子どもたちが光り輝いていきますように、共に子どもたちのために祈り、声かけなどによって、子どもたちを大いに励ましていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。(カテキスタより)

- 1列目 入口陽生(3年) 川村倅賀(3年) 堺蒼介(3年)
- 左から 小田郁馬(2年) 入口小次郎(2年) 小畑愛花(3年) 馬津川莉子(2年)
- 2列目 小畑和成(4年) 戸村初音(2年)
- 3列目 真鳥咲衣子(4年) 西津美陽(4年) 瀧口楓人(4年) 入口正大(4年)
- 4列目 金神父様 中尾露唯(5年) 堺悠太(4年) 松本鈴(6年) 小畑萌心(6年)

お知らせ&今後の予定

● 8月に行われた聖母祭・夜市でのバザー・屋台での収益が、合計で129,123円となりました。ご協力頂いた皆さん、本当にありがとうございます。災害時の募金等に活用させて頂きます。

● 高校生会について…堅信式後の中学生時から活動への参加を促すため、「中高生会」に名称を変更します。はじめは見学からで構いませんので、気軽に参加をお願いします。

● 牢屋の殉教祭
日時：10月27日(日)
午後1時 記念ミサ

(御ミサ前の午後0時30分より久賀小中学校から殉教地までの十字架行列を行います。)

集合：樫の浦港よりチャーター船が出ます。
午前10時30分始発(予定)で11時30分最終便(予定)です。

※久賀島内を徒歩で移動希望者は、早めの集合をお願いします。

● 墓地清掃
日時：11月3日(日) 午後2時
午後3時から墓地御ミサ
※午後1時30分から、ミサ用イス等を教会から運搬しますのでお手伝いをお願いします。

● 初聖体式
日時：12月8日(日) 二番ミサにて行います。

● クリスマス馬小屋、教会周辺イルミネーション飾り付け
日時：12月1日(日)
午後1時から(予定)

編集後記

朝晩も涼しくなってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。近年、温暖化の影響が極端な暑さや豪雨が、頻繁に起こるようになってきました。大雨特別警報が出る中で、恐怖を感じながら一人自宅で過ごした方も多かったのではないのでしょうか。災害への備えとともに、普段の近所同士や信徒間の声かけがいざという時や困った時の役に立つと思います。さて、教皇様の訪日が段々と近づいてきました。十一月二四日に長崎で行われる記念ミサに行かれる方は、とても楽しみにしている事と思います。当広報委員も当日の様子を取材し、次号の「こころ」に掲載する予定です。また、参加者の皆さんの感想コメントをまとめて掲載することも考えています。もちろん匿名で構いませんので、より多くの皆さんの感動を記事に出来たらと思っています。参加予定の方、その際はご協力の程よろしくお願いたします！ (N.H)